

図工のみかた

図工の先生のそのまわり

MIKATA NO MIKATA

図工のみかたのみかた

今号の図工のみかた、阿部先生の
子どもの見方。子どもが見えてくると、
題材が見えてくる。題材づくりの
その手前について教えてもらいました。

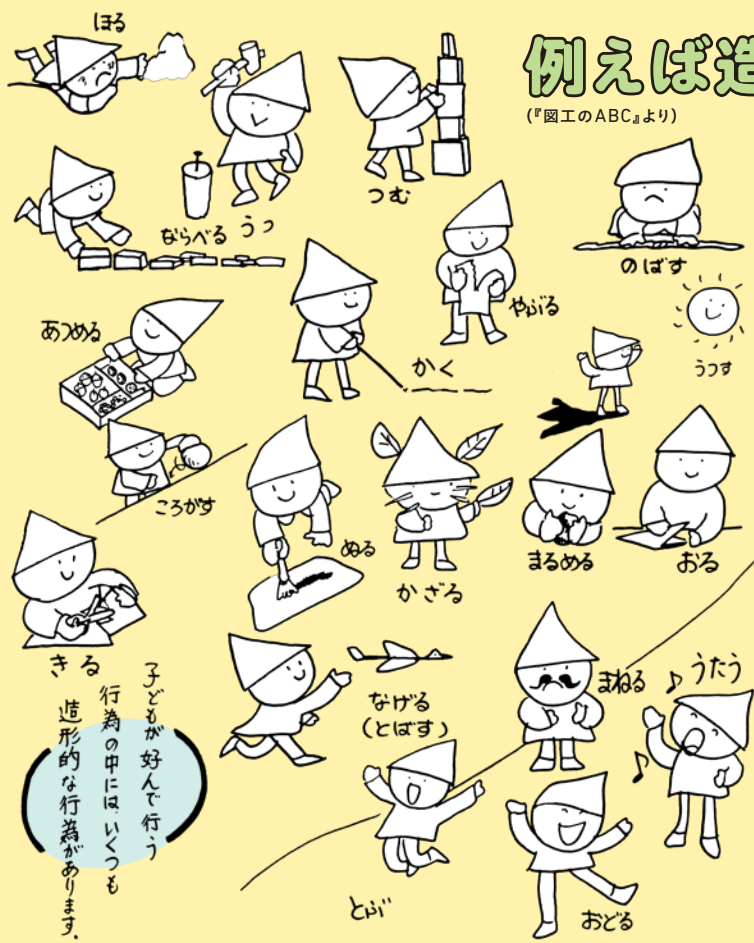


造形行為

・並べる・積む・掘る・写す・描く・切る
・伸ばす・結ぶ・転がす・真似る・投げる・吹く
・塗る・丸める・折る・曲げる・集める・歩く
・走る・跳び・跳る・歌う・食べる・話す
・語る・見る・聞く・触る・握る・持つ
・抱きかかえる

造形環境（材料・場所・状況）

・家庭・築山・砂場・廊下・階段 など
・自然材（木・枝・木片・土・砂・石・実・葉・水 など）
・人工材（紙・ダンボール・スチロール・ホリ袋・ペットボトルなど）
＜状況＞ 光・影・風・雨・雪 など（時間を含む）
＜用具＞ はさみ・のり・絵の具・工具類・刀物類 など



私は小人さんの4コマ漫画に、自分の「思い」を託しています。これまでの経験の中で知り得た「知識」を伝える手段として漫画を活用しています。小人さんは、『マンガの描き方』から生まれました。「丸に黒点を2つ描いて目にする」という話を読んで「これでいいのか」と肩の力が抜けたことがスタートです。4コマのストーリー性は、レオ・レオニの絵本から学びました。フレデリックは、芸術の大切さを私たちに教えてくれます。

左:『マンガの描き方』 手塚治虫(著) 光文社刊

右:『フレデリック』 レオ・レオニ(著)、谷川俊太郎(訳) 好学社刊

学習指導要領 資質・能力の三つの柱

知識及び技能ってなんだ？①



見つける (p.02)

自分の感覚や行為を通して理解する

見えてくる (p.02,07)

造形的な視点で捉える

今号は、知識がどう習得されていくのかというお話でした。子どもたちは、自分で見て、触って、感じ取りながら、形や色を見つけています。その実感が、表現や鑑賞の活動を通して、積み重なり結びついて知識となり、より多様な形や色が見えてくるようになります。こうして深まった造形的な視点で、身の回りを捉えることで、世界はもっと豊かに見えてくるのではないのでしょうか。

実感の積み重ね、それが、「知識」を身に付けていくことなのです。

造形的な見方・考え方 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

図画工作の目標 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(平成29年6月小学校学習指導要領解説図画工作編より)

表紙『いろいろ いろいろみず』(1年生)

色水をつくることや、思い付いたことを試す造形遊びの題材。色水を混ぜて、新しい色を見つながら、してみたいことを試していきます。すべり台の階段に色水を並べたら、いつものすべり台が楽しく見えてきました。

クリエイティブディレクター：池田晶紀(ゆかい)

アートディレクター：畑ユリエ

フォトグラファー：池田晶紀、川瀬一絵、池ノ谷侘花、伊藤萌(ゆかい)

イラストレーション：山根諒子(ゆかい)

図工のみかた 03号

日文教育資料【図画工作】

平成30年(2018年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33382

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18 7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

INTERVIEW

阿部宏行

(北海道教育大学教授)

学習指導要領

「知識ってなんだ？①」

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！

目次

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版

図工ってなんだ？

実感して、見えてくる

それが図工の力

自分で見つける



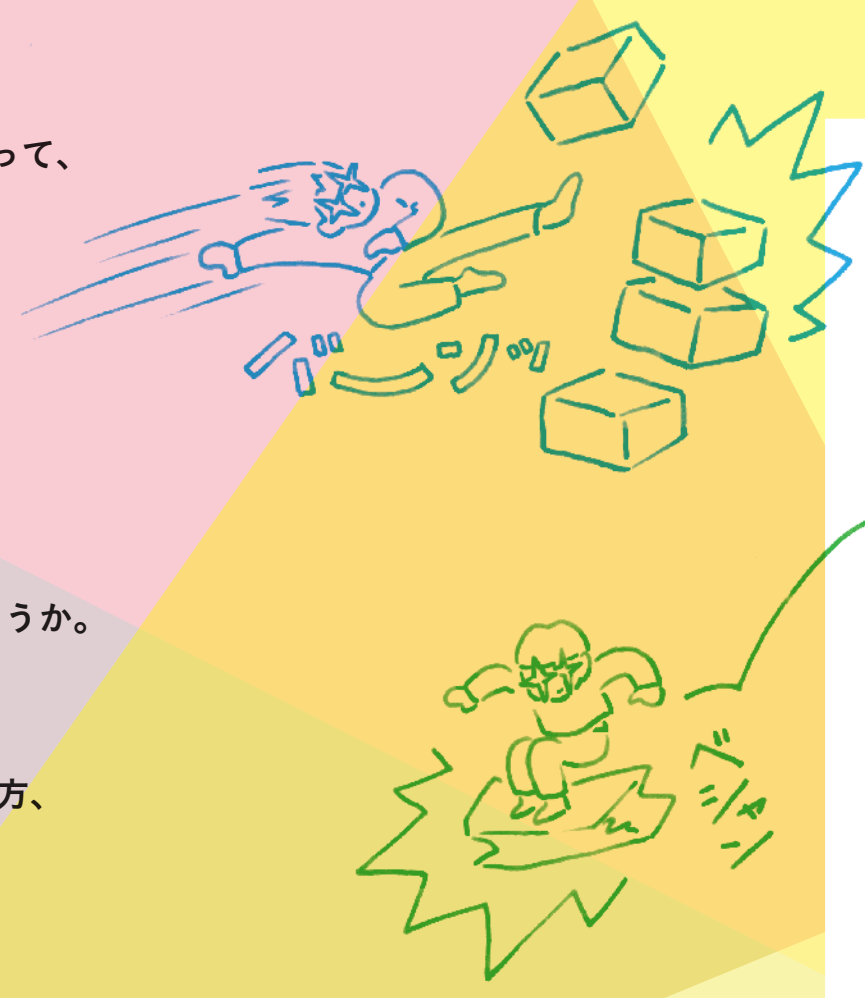
図工の時間、子どもたちは、自分で見て、触って、身体を使って、形や色に関わっています。

そのとき子どもたちは、どんな形や色を見つけて、どんなイメージを広げて、「こうしたい」という思いを実現しようとしているのでしょうか。

学習指導要領のキーワードと、図工の見方について、図工の味方、阿部宏行先生に聞きました。

語り手

阿部 宏行
(北海道教育大学教授)



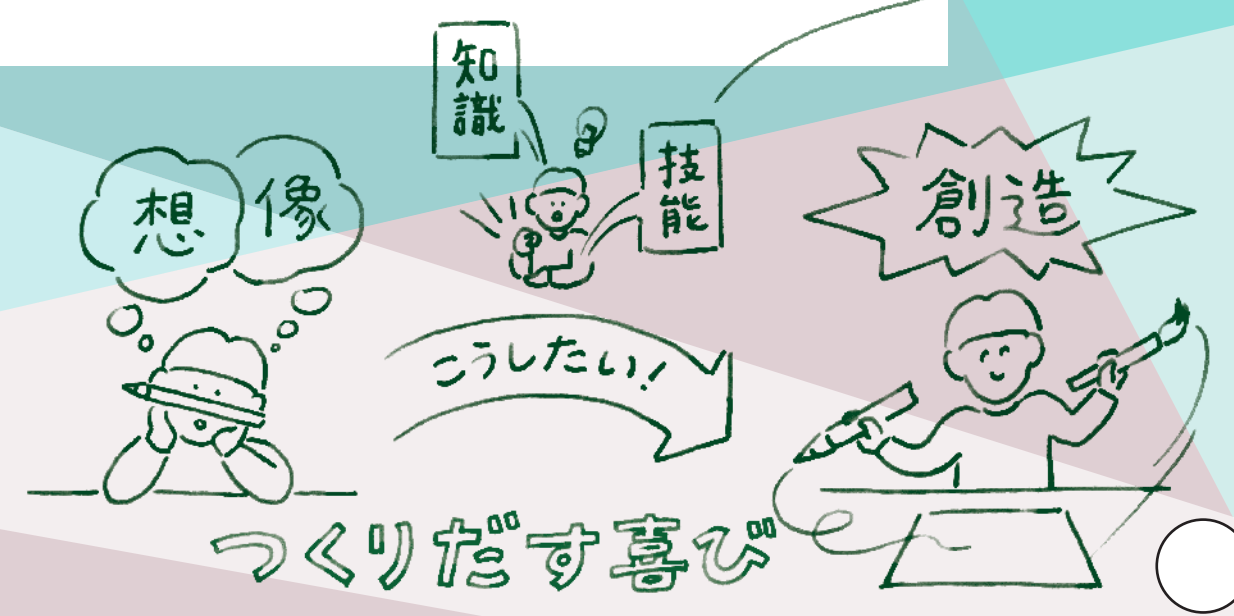
そういう子どもの一面があるって人からは聞いていたけど、それをようやく実感した。ぼくの授業は失敗ばかりだったけど、その経験が次の授業を考えるときに自分のどこに残っている。子どもがもっと見えてくる。やってみるから、見えてくるというのは、きっと大人も子どもも同じなんじゃないでしょうか。



図工って、想像力を創造性につなげていくこと。創造性に向かって「いいこと考えた！」というつぶやきがどんどん出る授業っていいですね。それには、子どもの自己表現が保障されていないと。「こうしたいけど、どうやってやろう」と試したり工夫したりする。そこで「いいこと考えた！」と知識や技能を活用したり獲得したりしていく。まず必然性とか切実感という発動する力がないと、理解は広がっていかないんです。

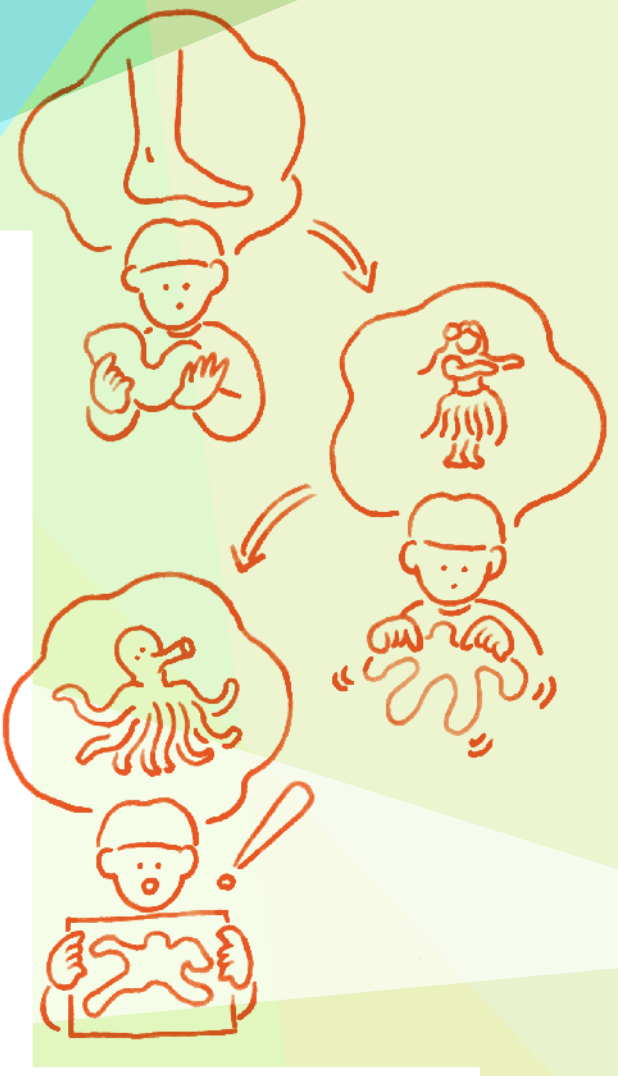
スムーズに授業を進めようとして、「最初に地面を塗って、それから…」と先回りして指示することが、子どもの「こうしたい！」という気持ちにブレーキをかけていないでしょうか。子ども自らが獲得しようとして得る知識ではなく、「先生の言うことを聞く」ことが一つの大事な知識になっているとしたら、それはおかしいとぼくは思うんです。子どもがどんどん受け身になってしまう。

世の中ってみんなく思い>できていて、「こうしたい」という思いをどう実現するのかっていうのが図工の力なんじゃないかな。思いを、何らかの形で実現したくて、絵に表したりする。その思いをすくいとってあげるのがぼくたち大人の仕事なんです。思いを実現する中で子どもはつくりだす喜びを知る。考えることとか、知識を含めてすべて「つくりだす喜び」に集約される。「イマジン」の歌詞のように、子どもの「つくりだす喜び」に満ちた姿を強くイメージすることが、授業改善に進む先生の第一歩だと思います。

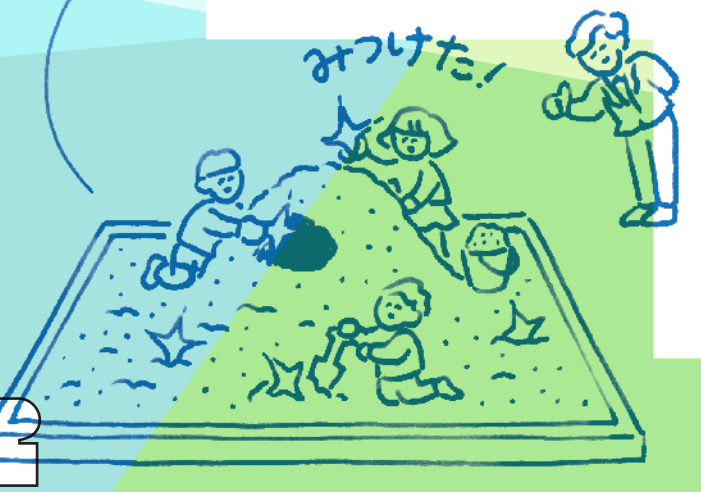


子どもって、つくりながらイメージを広げていきますよね。2年生の図工で、粘土を握った形からつくりたいものを考える活動がありました。ある男の子が粘土をぐにゅっとひねって、最初はその形が足に見えて人の体をつくることを思い付いたんです。つくっていくと手足が長くなって、ブラブラ振り始めました。すると「あ、フラダンスのスカートだ！」って。その後、粘土板に置いて離れて見ると「タコだ！」ってなって。そんな風に新たなイメージが浮かんでくるのは、素材と関わって、形を変えて、形を捉えることを繰り返しているからです。

そうやって自分で見つけた形や色が、知識になっていきます。先生から教えられることだけではなくて、「粘土のムニゅって感じが面白い」「ピンク色って気持ちが明るくなる」とか、子どもは見て、触って、感じ取りながら獲得しています。小学校では自分でいろんな体験を積むことが大切です。だから、活動をしながら知識を身に付けられるように、題材を考えないと。題材を砂場に例えるなら、先生はちゃんと知識などの資質・能力を埋めておくんです。それを表立って「そこに埋めてあるよ」って取り出すんじゃなくて、子どもが楽しく活動しているうちに「先生、見つけた！ここに知識があったよ」って身に付ける、そういう感じ。



子どもが何を見つけたかを知るには、子どもが何を面白がっているのかつかめないと。まずは子どものフィールドに下りることからスタートするんです。だから、学生には「子どもの視線で『学び』を考えて」ってよく言うんです。とにかく教室に行ったら子どもがしゃべっているのを聞いて、「すてきだね」って言ったら、そのすてきなものをそばでいっしょに見てあげてって。



あべ・ひろゆき
1954年、北海道生まれ。小学校教員として20年以上勤務、国立教育政策研究所、文部科学省中央教育審議会の委員等を歴任し、現在北海道教育大学岩見沢校美術文化専攻美術文化教育コース教授。日本文教出版小学校図画工作教科書の代表著者の一人として美術教育の発展に努める。



『ひかりの プレゼント』

いろいろな材料に、光を通してできる形や色。
動かしたり、重ねたりして、見え方を試しながら、
新しい形や色を見つけていく。光の世界が見えて
きて、「こうしたい」が生まれてくる。

(日本文教出版 ずがこうさく 1・2下 p.10-11)

見つけて、見えてくる。

ためして、
新しい形や色を見つける。
さっきまで見えていなかった世界が、
見えてくる。

「できた！」のその前には、
「見つけて、見えてくる」の
積み重ねがあります。